



「どんなことにも感謝」

2024年1月

高校教頭 慎 繁範



いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。
これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。
(テサロニケの信徒への手紙 — 5章16節～18節)

新しい年、2024年が始まりました。謹んでお慶び申し上げます。皆さまにおかれましては、どのように新年を迎えられたでしょうか。

さて、神様が私たちに望んでいることとして、パウロが手紙の中で明らかにしたものが、上掲の聖書箇所です。“喜ぶ”、“祈る”、“感謝する”と3つあるのですが、ここでは感謝について考えてみたいと思います。

感謝とは誰かから優しさや贈り物、手助け、好意など受けたときにわき出てくる感情です。“ありがとう”という言葉で相手に伝えることができます。実は、“ありがとう”と言われるより、“ありがとう”と相手に伝える側に多くのメリットがあると、科学的に分析されています。例えば“人間関係が良好になりストレスが減って健康になれる”、“幸せを感じやすくなる”、“ポジティブになれる”などです。それなら、常に“ありがとう”と言って生活したいところですが、実際には不満を感じたり、怒りを感じたりすることの方が多いでしょうか。

私達に感謝の気持ちが起こるためには2つの条件が必要とされています。1つは“自分にとって良い出来事が起こる”こと、もう1つはそれが“無償である”ことです。有償で何かを得たときには、対価を払っているのでむしろ当然と考えますが、無償となると感謝が湧き出てくるのです。私達には神様から多くのものを無償で与えられています。生まれながらに備わっている個性や能力も“賜物”と言うように、無償で神様から与えられているものです。何より私達には命が与えられています。本当は感謝すべきなのに感謝できていない、感謝を忘れてしまっているのが私達ではないでしょうか。

また、この聖書箇所にはどんなことにも感謝しなさいと書かれています。良い出来事だけではなく、嫌なこと、苦しいことも感謝しなさいというのです。なかなか難しいことです。神様は嫌なことでも感謝しなさいと、無茶なことをおっしゃるのでしょうか。聖書の他の箇所にはこのように書かれています。“あなたがたを襲った試練で、人間として耐えられないようなものはなかったはずで、神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます” 辛い出来事も、それを通して私たちが成長できるように、また神様が逃れる道をも与えてくださっている、そのことを感謝しようと聖書は語っているのです。

私達にとっての最大の良い出来事は、イエス・キリストが私たちの罪の身代わりになり、十字架上で私たちが受けるべき刑罰のすべてを引き受けて下さったという事実です。このことを受け入れるだけで、つまり無償で私たちの罪は赦され、神に近づくことができるのです。感謝の対象は神様です。現実には様々な辛い出来事が起こりますが、それらを受け止め、無償で大きな愛を示して下さった神様に感謝する1年にしたいものです。

